

会 議 錄

会議名	令和7年度第3回京田辺市学校教育審議会
日 時	令和7年9月1日（月）午後6時00分から午後8時00分まで
場 所	京田辺市役所3階 305会議室
内 容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1)前回の発表とふりかえりの結果 (2)意見の整理 (3)答申目次 4 その他
出席者	(委員) 12名出席 沖田委員(会長)、小長谷委員(副会長)、関委員、吉田委員、久保委員、上原委員、森本委員、宮本委員、島谷委員、浦田委員、津熊委員、岩井委員 (事務局) 櫛田教育部長、片山教育指導監、古谷教育部副部長、平岡教育総務室担当課長、南部こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、濱本教育総務室企画係長、山盛教育総務室企画係主任
傍聴者	なし

●議事

(1)前回の発表とふりかえりの結果

《事務局から資料1及び資料2に基づいて、前回の審議会で3つのチームが発表した内容と重要と考えたキーワードのまとめを説明》

会長： ただいまの説明について、何かご意見や付け加えるところはございますか。

会長： いかがでしょうか。キーワード一覧については、色づけされた項目も、色づけされていない項目もどれも重要であり、積極的に取り入れていこうというものです。

それでは、次の議事ですが、これまでに教員や児童生徒へ意見聴取を行った結果、また、我々の審議してきたことをまとめてもらいましたので、説明をお願いします。

(2)意見の整理（討議）

《事務局から資料3に基づいて、これまでの審議会を通じて議論された内容や意見聴取した結果を整理したことについて報告し、さらに広げたり、深めたりするべき点がないかを討議する流れについて説明》

《出席委員が3チームに分かれて、①新しい時代の学びへの対応、②多様な背景や特性のある児童生徒への対応、③地域との連携、④生活・安全部面についての課題と対応について約50分討議した上で、これから学校施設の基本的な方向性について約20分意見交換し、基本的な方向性をまとめた》

会長： それでは、それぞれのチームから発表をお願いします。Aチームの発表をお願いします。

委員： Aチームでは、前回の意見を踏まえてまとめたところ、①の新しい時代の学びへの対応と②の多様な背景や特性のある児童生徒への対応を合わせて絞り出したフレーズが、「多様な学びを自分で選択できる学校」になりました。ICT等、色々な新たな学習がある中で自分自身でそれを選んでいく、学びも体験であるとか、そういうものも選べる。また、ちょっと休みみたいな、休憩したいななどいうことも自分で選べる、そういう自分自身が決めて選ぶことができる学校というものが大事であるということを話し合いました。

③の地域との連携ですが、こちらは地域の色々な人材を活用しようということで、まずは地域の人材の発掘をやって、1回限りではなく、継続的に活躍してもらうシステムをつくるのがよいのではないかという話にまとまりました。

④の生活・安全部面では、当分の間、現行のものを活用しなければならないとしても、メンテナンスをしっかりと行うことで、清潔で、心地よい空間がキープできるのではないかということです。また、やはり防犯という意識も大事で、カメラの導入であるとか、新しいものを入れる意識というものを構築していくことが大事ということでした。以上です。

会長： ありがとうございます。それでは、Bチームの発表をお願いします。

委員： ①の新しい時代の学びへの対応では、まず、場所がほしい、そしてどういったことが考えられるかというと、図書館といったものがあります。図書館を中心にして、その前にみんなが集う場所であったり、周囲に自習室

であったり、ちょっとした大きなグループでもさわいでもいいぐらいの大きさがあるフリーデザインの図書館といったものを模索してもいいのではないかという意見が出ました。特に、プールというものがなくなっていく中で、その跡地を活用する。プールつぶして、その後にまた箱物建てるということは費用がかかることですけれども、大きな体育館ではなくて、もうちょっと小規模の使い勝手の良いミニ体育館のようなものを建てたりとか、子どもたちから出ている意見ではプールの跡地で遊びたいとか、また畑をしたりとか、虫を育てたいとか、色んな意見があるので、じやあ二階化したらいいじゃないかとか、色々な意見がありましたが、これについては、大きなところであります。

機材関係では、椅子について意見が色々とありました。広い机と、それに合わせた高さが制御できるような椅子、児童生徒の身長に合わせて使えることができる椅子があって、広い机を1つ置けば良いのではないかと思います。

それと、タブレットについて、色々な文書に出てきますが、はたしてどうなったかというと良くなつたということです。良いところも、悪いところもあっても、大多数が良いところであって、もうタブレットがない時代には戻れないというようなことが言われております。

あとは、④の生活・安全面ともかぶるんですけれども、学校を安心できる場所にしてほしいという意見がありました。

世代間交流として、学校施設を活用できないかということがあります。それについては、②の多様な背景や特性のある児童生徒への対応という中で、ハードウェアでいくらなんとかしようと思っても、それに対応する人材が非常に重要ですという意見がありました。人がいなければ、どんな枠組みがあっても、場所があっても、児童生徒には十分に対応できないのではないかということです。その中で、空き教室、保健室を使えるようにしようということですが、とりあえず人材も必要ということです。あと、悩み相談の部屋も欲しいということで、教会の告白室みたいな作りもいいのではないかというアイデアがありました。これは、目の前にスクールカウンセラーの方がいればいいのですが、それが難しい場合は、ＩＣＴやタブレットを活用して、遠隔で、リモートで対応はどうかという意見がありました。あとは、デンとかアルコープに関しては、工夫すればできるのではないかと思いました。場合によっては、ミニテントみたいなものでもいいのではないかということです。そういったことで、色々と学校にいきづらい子どもさんらのケアができるのではないかと意見がありました。

あと、保健室、本来の枠組みからはずれた形で、悩み相談とか、そういうことになっているのは問題ではないかということで、保健室の中で疾病とか怪我された方をケアするところと悩み相談するところを分けると

いうことも必要ではないかということでした。とにもかくにも、ここは人材が確保できることには花は咲かないし、人材を確保できればなんとかできるのではないかということでした。

あと、③地域との連携では、学校で何をやっているか分からず、学校と地域の敷居が高すぎるという意見がありました。これはセキュリティの問題もあるのでしょうかない部分もあります。せっかく、各地域に学校というものがあるのだから、学校を中心に、地域と連携が取れるようなことを工夫していけばいいのではないかということです。ちょっと、ソフト的な面の話でしたが、なかなか情報がでてこないという意見もありました。それと、校外学習ですが、地道にやっていけば、地域との連携がとれるのではないかという風に言われております。

あと、④の安全・安心のところでは、更衣室については、もうちょっと考えていただけないかという意見がありました。時間をずらして着替えるということもあります、やはり今は、各ご家庭の関心も高いのではないかということです。あと、個人のロッカーとともに必要ではないかとか、防犯カメラとか、教室に付けるのではなくて、廊下とか、外構、扉とか門とかに付けるということで防犯でつけてほしいということです。最後にててきましたのが、バリアフリーですが、是非進めていただきたい。設備の老朽化で耐震補強など色々あるとは思いますが、とにかくでこぼこがあって健常者でもあぶないシチュエーションがあるという意見がありましたので、これも入れて欲しいということでした。以上です。

会長： ありがとうございます。それでは、Cチームの発表をお願いします。

委員： 4つの視点の中で、最初に話したのが、②の多様な背景や特性のある児童生徒への対応です。この観点は、そもそも、だれもが、どの子どもであっても当てはまる環境づくりになると思っています。教室に落ち着けるスペースがあったら、教室に入りやすいですよね、それでも無理な場合は特別な場所や広いスペースで心を落ち着けたり、チーム担任制ということで先生も色々と相談できたりとか、色々な形態の授業が考えられたりとか、だれもが行きやすい学校が大事なのではないかということでした。

続いて、④の生活・安全部ですが、一番に対応すべきとあった意見が、やはりトイレであり、快適でなければならぬ。そして、更衣室、今の時代、小学校低学年からでも、更衣室で着替えるのがスタンダードになっていくのかなと思います。あと、職員室に教師1人に対して1つの机がないという学校もありますので、職員室スペースの確保も大事だと思います。総じて、快適な居住空間が大事なんだろうと思います。

それから、①の新しい時代の学びへの対応ですが、おそらく、新しいカ

リキュラム、教科横断的な学習がどんどん入ってくるんじやないかということで、学び方や学ぶ人数の自由度が広がっていくのだろうなと思います。そして、それを子どもたちが選択していくんだろうと思います。それを支える環境というのも、自由度がなければならぬだらうということで、自由な設計、色々なスペース、学ぶ道具といったものの選択肢がたくさんある学校が良いだらうと思います。そして、I C T というキーワードをずっと言っているんですけども、小学生、特に低学年などは体験ということは非常に大事ですし、抜くことはできないだらうと思います。

それから、最後に③の地域との連携です。案外、たくさんの意見が出たところなのですが、まずは地域と学校の一体化が大事なのではないかと思います。別々になっている内は、交流はなかなか進みにくいと思います。どちらが正解かは分からぬんですが、学校が地域に入るのか、地域の中に学校が入るのか、そういうイメージが大事なのではないかと思います。公民館的なものが学校の中にある、幼稚園や介護施設のようなものが学校にある、そうなると、自然にどんどんと進んでいくのではないかと思います。また、普賢寺小学校のコミュニティスクールのような関係が大事なんだろうなと思います。

これらを総じて、コンセプトということで全体合わせて考えたんですが、「子どもも地域も教員も行きたくなる学校」です。わくわく、どきどき、にこにこ、わいわい、ゆったり、ほっこり、ごろごろしながら、皆さんに学校に来てもらえばなということでありました。以上です。

会長： ありがとうございます。3つのチームから発表していただきました。ただいまの発表について何かご意見がありましたら、お願いします。

3チームの発表を聞いておりますと、重なる部分がたくさんあったと思いますね。よろしいでしょうか。

それでは、次の議事に進みます。答申の目次の確認となります。

(3)答申目次

《事務局から資料4に基づいて、これまでの審議内容から考えられる答申骨子となる目次を説明》

会長： ただいまの説明について、何かご意見はございますか。

だいたい、このような骨子で答申作成を進めてもらうということでおろしいでしょうか。

会長： ありがとうございます。それでは、本日の審議内容を基にして、次回は答申素案を作成して、皆様のご意見をお聞きし、確認していきたいと思います。

それでは、全体を通して、何かありましたら、お願ひします。

事務局： 私から2点、確認よろしいでしょうか。Bチームから出てきた意見で、大きな机で、高さ調節ができる椅子とのことがありました。椅子はそれぞれの児童生徒に合ったものにしていくということ、そして、ここでの大きな机というのは、個々の机ではなく、複数人が座れる、複数人で使える机という認識でよろしいでしょうか。

委員： はい。

事務局： それから、クールダウンする居場所にミニテントのようなものが使えるのではないかという意見がありましたが、これは、イメージとして、最近感染症が流行りましたが、避難所に使われた囲われた形のミニテントというイメージでよろしいでしょうか。

委員： はい。

会長： ありがとうございます。それでは、他にありますでしょうか。
よろしいでしょうか。それでは、他にございませんので、議事を以上とします。

●その他

《事務局から今後の審議会の予定について連絡》

(以上)